2023年入門講座「分析化学における分離技術」企画書（案）

（公社）日本分析化学会「ぶんせき」誌編集委員会

私達が持続可能な社会を実現するためには、多様な混合物で構成されている自然界の物質から有用な物質を選別し、得られた資源から人工混合物をつくり、さらにリサイクルのために混合物を分離し活用することで、私達にとって必要かつ有限な資源を循環させることが必要です。これらの循環を持続的に行うためには、「分離技術」は無くてはならない技術の1つとして挙げられます。また、この循環を支える分析化学にとっても分離技術は大変重要であり、分析対象物の高機能化や高精密化に伴い、より高度な分析技術が求められています。

　本入門講座では、「分析化学における分離技術」と題しまして分離技術や一般的な分析対象物の中から12個のテーマを取り上げ、その原理と活用事例や分離を行う上での注意点等について概説していただき、分析化学者が普段何気なく活用している分離技術を改めて深く理解していただくことで、さらなる利用・活用のきっかけとなる内容にしたいと考えております。

　分析化学初心者にも理解できるような原理や装置の概観図を用いた説明と、実際の活用事例などを写真や図を利用しながらご紹介いただけますと幸いです。

　執筆者各位におかれましては、ご多忙中大変恐縮ではありますが、本企画の趣旨をご理解頂き、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

入門講座「分析化学における分離技術」執筆者一覧（案）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 掲載順 | タイトル（仮題） | 執筆候補者/所属（敬称略） |
| 1 | 抽出 | 加賀谷 重浩／富山大  小池 裕也／明治大  古庄 義明／ジーエルサイエンス |
| 2 | 膜分離 | 清野 竜太郎／信州大 |
| 3 | 液体クロマトグラフィー | 渋川 雅美／埼玉大 |
| 4 | ガスクロマトグラフィー | 石田 康行／中部大 |
| 5 | イオンクロマトグラフィー | 森 勝伸／高知大  小林／メトローム |
| 6 | フィールドフローフラクショネーション | 加藤 晴久／産総研  板橋 大輔／日本製鉄 |
| 7 | 電気泳動 | 齋藤 伸吾／埼玉大 |
| 8 | マイクロ流路デバイス | 火原 彰秀／東北大 |
|  | （セルソーター） |  |
| 9 | 高分子 | 香川／東ソー |
| 10 | 界面活性剤 | ライオン or 花王 |
| 11 | 食品 | 高橋／味の素 |
| 12 | 放射性物質 | 佐々木 祐二／日本原子力研究開発機構 |
|  | （鉱物） |  |

※ 掲載順は変更になる場合があります。また題名のあとのカッコ書きは仮題ですので、変更の可能性があります。

※ 図表を含め、12000字以内。

※ 本欄は3色（赤・青・黒）印刷のページになります。